



**ARIS**

# ARIS アクセラレーターの GDPR 表記規則

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 12

2020 年 4 月

This document applies to ARIS Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2020 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products".

These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

# 目次

## 目次I

1	テキストの表記規則	1
2	はじめに	2
3	文書の内容	3
3.1	目的と範囲	3
3.2	必要条件	3
4	ARIS 表記規則	4
4.1	処理アクティビティと関係の作成	4
4.1.1	ランドスケープのトピック	5
4.1.2	オブジェクトと関係	5
4.1.3	属性	7
4.1.3.1	[処理アクティビティ] の属性	7
4.1.3.2	[クラスター] の属性	9
4.1.3.3	[組織ユニット] の属性	10
4.1.3.4	[アプリケーション システム タイプ] の属性	11
4.2	処理アクティビティ/プロセス階層の作成	13
4.3	クラスター/データ階層の作成	13
5	用語集	14
6	法的情報	15
6.1	ドキュメンテーションの範囲	15
6.2	データ保護	16
6.3	制限事項	16

## 1 テキストの表記規則

メニュー項目やインターフェイス アイテムは次のように表記されます。

- メニューおよびメニュー項目は角括弧 ([ ]) で囲んで表記します。`[F12]`キー名は、山型括弧 (< >) で囲んで表記します。`[C:\temp]`ファイル名は小文字で表記します。
- ユーザー定義エントリは、テキストを < > で囲んで表記します。
- 例のテキストのように、長いディレクトリ パスなどは 1 行には長すぎるため、行の末尾にある ↵ を使用して次の行に送られます。
- ファイルからの抜粋はこのフォントで表示されます。

This paragraph contains a file extract.

- 警告には背景色が付きます。

### 警告

この段落には、警告が含まれます。

## 2 はじめに

データ保護管理情報と機能の作成と再利用性を簡易化するために、ARIS Architect でオブジェクトをモデル化できます。これらのオブジェクトは ARIS Risk & Compliance Manager のワークフローにより使用されます。しかしながら、これは ARIS Architect でのモデル作成に関するメソッド・機能規則および表記規則に従った場合のみ可能です。これらの規則に準拠している場合のみ、モデル化されたデータを ARIS Risk & Compliance Manager に転送して再使用できます。これらのオブジェクトを適切に ARIS Architect で管理するには、『ARCM – General conventions』と ARIS Risk & Compliance Manager のワークフローに関する該当の表記規則マニュアルをご覧ください。

## 3 文書の内容

下のセクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、関係と接続線タイプ、属性の使用に関する標準を説明します。

### 3.1 目的と範囲

目的: モデル作成ガイドラインの指定

本マニュアルに含まれない項目: ユーザー文書

### 3.2 必要条件

次の表記規則を使用するには、最初に GDPR メソッド拡張フィルターを ARIS Architect にインポートします。このフィルターにより、派生されたおよびユーザー定義のメソッド構造（モデルタイプ、オブジェクトタイプ、シンボル接続線タイプ、属性タイプグループ）が GDPR 規則に必要な ARIS メソッドに追加されます。これらは、GDPR 規則に必要なメソッド構造です。他のすべてのアクセラレーターは、この拡張 ARIS メソッドに基づいています。

GDPR メソッド拡張を使用するには、[全メソッド] フィルターを使用するか、GDPR メソッド拡張を既存の ARIS GRC フィルターに追加します。GDPR メソッド拡張フィルターには、GRC メソッドに基づく GDPR 用の追加拡張のみが含まれます。GRC メソッドに関する詳細情報は、ARIS Risk & Compliance Manager とともに配布される表記規則マニュアルを参照してください。GDPR の ARIS アクセラレーターのインストールの詳細については、『GDPR の ARIS アクセラレーター インストール マニュアル』を参照してください。

## 4 ARIS 表記規則

### 4.1 処理アクティビティと関係の作成

ARIS データ機密性機能の中心は、EU 一般データ保護規則 (GDPR 『14ページ』) により定義されたプロセス ファンクション (処理アクティビティ 『14ページ』) の識別に依存します。ARIS の [GDPR 処理アクティビティ] 属性を使用して、プロセス ファンクションが処理アクティビティ (true) であるかそうでないか (false) を指定します。

処理アクティビティと関連情報は、マスター データの保守を簡略化するために、ARIS Architect の [処理アクティビティ記述図] モデル (API 名: b0205e20-4aa5-11e7-43b7-08002721906d) でモデル化されています。このモデル タイプは、[ファンクション割当図] モデル タイプから派生したものです。

## 4.1.1 ランドスケープのトピック

公開後にこの見出しと段落を削除してください。

## 4.1.2 オブジェクトと関係

データ保護管理のフレームワーク内では、次のオブジェクトを [処理アクティビティ記述図] モデルで使用できます。

オブジェクト タイプ名	API 名	シンボル タイプ名	シンボル	ARCM 名
ファンクション	OT_FUNC	処理アクティビティ		プロセス (階層要素)
組織ユニット	OT_ORG_UNIT	組織ユニット (実行者)		組織実行者 (階層要素)
組織ユニット	OT_ORG_UNIT	組織ユニット (責任者)		組織責任者 (階層要素)
クラスター/データ モデル	OT_CLST	クラスター		データ (階層要素)
リスク	OT_RISK	リスク		リスク



オブジェクト タイプ名	API 名	シンボル タイプ名	シンボル	ARCM 名
アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	アプリケーション システム タイプ		アプリケーション システム タイプ (階層要素)

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続/API 名	オブジェクト
組織ユニット (責任者)	技術的責任を持つ (CT_IS_TECH_RESP_1)	処理アクティビティ
組織ユニット (実行者)	実行する (CT_EXEC_1)	処理アクティビティ
リスク	発生する (CT_OCCUR)	処理アクティビティ
アプリケーション システム タイプ	サポートする (CT_CAN_SUPP_1)	処理アクティビティ
処理アクティビティ	読み取る (CT_READ_1)、出力として持つ (CT_HAS_OUT)	クラスター

## 4.1.3 属性

### 4.1.3.1 [処理アクティビティ] の属性

次の割り当ては処理アクティビティに適用されます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	name	必須フィールド、最大 250 文字入力できます。
説明	AT_DESC	description	処理アクティビティの目的を指定します。
GDPR 処理アクティビティ	2b70adc0-4504-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_processingActivity	ユーザー定義 - ファンクションが処理アクティビティかどうかを指定します。
データ機密性スコア	695b1ad0-1df9-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_process_privacyScore	ユーザー定義 - 階層要素のデータ機密性を評価するために事前定義されたスケールの予測されたスコアを指定します。例: 処理アクティビティ資格質問票から派生したスコア。
データの機密性	332790f0-1dfa-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_process_dataSensitivity	ユーザー定義 - データに特別な処理が必要かどうかを示します。オプション (デフォルト値): <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 公のデータ</li> <li>▪ 機密</li> <li>▪ 機密性が高い</li> <li>▪ 非常に機密性が高い</li> <li>▪ 極めて機密性が高い</li> </ul>

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	注意
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	signoff	処理アクティビティをサインオフ関連としてマークします。設定されていない場合は、ARIS Risk & Compliance Manager でのデフォルト値は false です。

### 4.1.3.2 [クラスター] の属性

次の割り当ては [クラスター] に適用されます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	name	必須フィールド、最大 250 文字入力できます。
説明	AT_DESC	description	
制限レベル	15eaceb1-096b-11e7-2959-d4bed9888991	gdpr_restrictionLevel	<p>ユーザー定義 - データの法的用途のレベルを指定します。オプション (デフォルト値):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 無制限データ</li> <li>▪ 個人データ</li> <li>▪ 機密性の高い個人データ</li> <li>▪ 機密データ</li> </ul>
データ機密性スコア	695b1ad0-1df9-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_privacyScore	<p>ユーザー定義 - 階層要素のデータ機密を評価するために事前定義されたスケールの予測されたスコアを指定します。例: データ要素資格質問票から派生したスコア。</p>

### 4.1.3.3 [組織ユニット] の属性

次の属性割り当ては [組織ユニット] オブジェクトに適用されます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	name	必須フィールド、最大 250 文字入力できます。
説明	AT_DESC	description	
データ保護オフィサー	1c2537a1-4072-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_protOfficer	ユーザー定義 - データ保護オフィサーの名前と住所を表示します。処理アクティビティの記録を含める必要があります。レポートに表示する必要があります。
データ保護代表者	8f055dc1-407e-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_protRepresentative	ユーザー定義 - データ保護代表者の名前と住所を表示します。処理アクティビティの記録を含める必要があります。レポートに表示する必要があります。
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	signoff	組織ユニットをサインオフ関連としてマークします。設定されていない場合は、ARIS Risk & Compliance Manager でのデフォルト値は false です。

#### 4.1.3.4 [アプリケーション システム タイプ] の属性

次の属性割り当ては [アプリケーション システム タイプ] に適用されます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	name	必須フィールド、最大 250 文字入力できます。
説明	AT_DESC	description	
データの機密性	332790f0-1dfa-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_dataSensitivity	ユーザー定義 - データに特別な処理が必要かどうかを示します。オプション (デフォルト値): <ul style="list-style-type: none"> <li>公のデータ</li> <li>機密</li> <li>機密性が高い</li> <li>非常に機密性が高い</li> <li>極めて機密性が高い</li> </ul>
GDPR 限定スコア	badc1630-2014-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_qualificationScore	ユーザー定義 - 階層要素のデータ機密を評価するために事前定義されたスケールの予測されたスコアを示します。例: アプリケーション システム資格質問票から派生したスコア。
GDPR リスク関連性スコア	da6e5cb1-2014-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_riskRelevanceScore	ユーザー定義 - 階層要素のリスク関連性を評価するために事前定義されたスケールの予測されたスコアを示します。例: GDPR リスク評価から派生したスコア。
データ機密性スコア	695b1ad0-1df9-11e7-43b7-08002721906d	gdpr_privacyScore	ユーザー定義 - 階層要素のデータ機密を評価するために事前定義されたスケールの予測されたスコアを指

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	注意
			定めます。例：アプリケーション システム資格質問票から派生したスコア。

## 4.2 処理アクティビティ/プロセス階層の作成

処理アクティビティのビジネス クラスター（組織が代表している部門や国など）をモデル化するには、[処理アクティビティの記録] モデル (API 名: c45962f1-4b87-11e7-43b7-08002721906d) を使用します。このモデルは、[付加価値連鎖図] から派生したモデルです。処理アクティビティ間の階層は、[プロセス指向的に上位にある]/[プロセス指向的に下位にある](CT\_IS\_PRCS\_ORNT\_SUPER) 接続線で表すことができます。

ARIS Risk & Compliance Manager では、階層にはツリー構造のみが使用できます。したがって、各処理アクティビティの上位処理アクティビティ/ファンクションは 1 つしかありません。

## 4.3 クラスター/データ階層の作成

クラスター間で階層をモデル化するには、[IE データ モデル] または [eERM] モデルを使用してください。[IE データ] モデルの 2 つのクラスターのあいだで直接の接続線として [構成される]/[一部である] (CT\_CONS\_OF\_2) 接続線により、または [eERM] モデルをクラスターヘアサインすることにより形成される非表示の接続線として、クラスター間の階層が表されません。

ARIS Risk & Compliance Manager では、階層にはツリー構造のみが使用できます。そのため、各クラスターは上位クラスターを 1 つしか持つことができません。



## 5 用語集

### GDPR

EU 一般データ保護規則 (**General Data Protection R**、GDPR) は欧州連合内の個人データを保護します。また、EU 外への個人データの持ち出しも規制します。GDPR は欧州議会、欧州連合理事会、欧州委員会による規制です。

### 処理アクティビティ

処理アクティビティは、集合、記録、送信による開示などの、個人データに実行されるあらゆる操作です。そのため、これは一般データ保護規則 (GDPR 『14ページ』) に準拠します。

処理アクティビティと関連する情報は、ARIS Architect の[処理アクティビティ記述図] モデルおよび [処理アクティビティの記録] モデルでモデル化されます。詳細情報は、『ARIS Risk & Compliance Manager - データ保護管理』を参照してください。

### シングル サインオン (SSO)

SSO、つまり「シングル サインオン」では、ユーザーがユーザー名とパスワードを使用した認証が必要なのは 1 回のみです。認証後は、さらにログオンしなくても、すべてのサービス、プログラム、およびコンピューターにアクセスできます。

ユーザーがサービス、プログラム、およびコンピューターにアクセスすると、新たに認証が要求され、基礎となる SSO メカニズムにより認証が実行されます。

## 6 法的情報

### 6.1 ドキュメンテーションの範囲

提供されている情報では、印刷が行われた時点における設定および機能について説明しています。ドキュメンテーションとソフトウェアの生産サイクルが異なるため、設定や機能に関する説明が、実際の設定や機能と異なることがあります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みになり、記載されている情報を考慮して製品をインストール、設定、および使用してください。

Software AG によって提供されるコンサルティング サービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオしか説明できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示（特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ）に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS Client	ARIS Server を使用して共有データベースにアクセスするすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザを使用してアクセスできる ARIS Client を指します。

## 6.2 データ保護

Software AG の製品は、個人データの処理に関して EU 一般データ保護規則 (General Data Protection Regulation; GDPR) に準拠した機能を提供しています。

該当する場合は、対応する管理文書に適切な手順が記録されます。

## 6.3 制限事項

ARIS 製品は個人による使用を目的として開発されています。内容の生成や、インターフェイスを使用したオブジェクト/成果物のインポートなどの自動化プロセスによって、データ量が膨大になり、その実行が処理能力や物理的な限界を超える可能性があります。たとえば、モデルや図がモデリング領域のサイズを超えたり、極端に多数の操作処理が同時に開始されたりした場合には処理能力を超える可能性があります。使用可能なメモリが操作の実行やデータの格納に対して不十分な場合には、物理的な限界を超える可能性があります。

ARIS 製品を適切に操作するには、信頼性があり、高速なネットワーク接続を利用できることが必要です。応答時間が不十分なネットワークでは、システムのパフォーマンスが下がり、タイムアウトを引き起こす可能性があります。

製品に ARIS 文書格納が含まれる場合、次が適用されます：

ARIS 文書格納 は、40,000 の成果物を使用してテストが実施されました。これには、文書、文書バージョン、フォルダーが含まれます。保管される成果物の数と合計サイズを監視して、必要に応じて成果物の一部をアーカイブすることをお勧めします。

ARIS 製品が仮想環境で使用されている場合は、オーバーブッキングのリスクを回避するために十分なリソースが利用できることが必要になります。

システムは、10 万のグループ (フォルダー)、10 万人のユーザー、および 100 万のモデル作成の成果物を含むシナリオを使用してテストされました。システムは、25 平方メートルのモデル領域をサポートします。

プロジェクトまたはリポジトリが許容される最大サイズよりも大きい場合には、小さく分割して管理を容易にするための強力な機能が用意されています。

プロセス管理、ARIS 管理、ARIS 文書格納、ARIS プロセス ボード、実行可能プロセスの生成の使用に関しては、制限がある場合があります。Process Governance は、1000 の並列プロセス インスタンスに対してテストされ、認証されています。ただし、プロセスの複雑性 (カスタム レポートが統合されているかなど) に従ってこの数は変化することがあります。